

京都の福祉

発行 京都府社会福祉協議会

2008

7

No.481



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。

主な記事

- 1面…もえくさ
- 2面…特集 介護・福祉サービス第三者評価
- 4面…ぶらっとほ一む 馬とのふれ愛倶楽部
代表 山下泰三さん
- 6面…つながろう うみだそう
企業と福祉 京都から①
- 8面…市町村社協 ホームページ開設
京都府社協 決算概要

4面記事「馬と人と笑顔あふれる交流」

「蟹工」とまではいかないが、福祉の現場では、働き手が不足し、特に介護現場では悲鳴に近い状況に追い込まれている。作家の落合恵子さんが、母親の介護体験を振り返る雑誌の対談で次のようなコメントを述べた。「（介護の仕事は）本当に尊い仕事だと思っんですよ。でもヘルパーさん運をみていて、時給が正直低すぎる。日本は、ハードな、心のコもった仕事をしている人に対して、あまりにも給与が低すぎる。皆さんが物質的に豊かになることが、いい介護のスタートだと思います」。核心を突いたこのコメントに同感する。「まずやるべきことはここにあり」と言いたい。介護保険制度の根幹の問題である。京都府では、「福祉人材確保対策会議」を設置し、正面からこの課題に取り組み始めた。大いに期待したい。何よりもお年寄りや人間を大事にする世の中をつくるためにも。

もえくさ

▼ここ数ヶ月は、ほんとうに話題に事欠かない。どれをとっても一言二言物申したいことばかりである。今回は、それを二言、三言。▼今年の4月以降、国政を大きく揺るがしている「後期高齢者医療制度」。制度の趣旨や課題を論ずるつもりはないが、福祉に携わるものとして、一言申し上げたい。「政治は誰のために、何のためにあるのか」と。「障害者やお年寄り、子どもに優しくない世の中は、病んでいる」社会だと、ある識者が言っていたが、今の高齢者は、あの悲惨な戦中戦後を苦勞して生き抜き、戦後の復興を支えてきた、いわば礎の人達である。その人達を、病気がちだからといって（結果として）邪魔もの扱いにする、ないがしろする制度は、誰がどこから見ても理解されないだろう。明日はわが身と若者までが不安を抱く制度では困る。・長寿医療制度に名前を変えてそれで終わり、では済まない問題だ。▼今、若者の間で、「カニコー」が話題になっているとか。作家の小林多喜二の「蟹工船」の略語だと最近のテレビで知った。書店でこの本の売れ行きが急上昇し、増刷に次ぐ増刷をしているとか。いわゆる「仕掛け本」であるらしいのだが、「なぜ若者の間でこんなこと？」と聞けば、今の「ワーキングプア」にあい通じるものがあるという。劣悪な労働環境で働く若者の共感を呼んでいるそう。戦後60余年たった今日、戦前の出来事がワープして今に現れるとは小林多喜二も想像だにできなかっただろう。▼さて、「蟹工」とまではいかないが、福祉の現場では、働き手が不足し、特に介護現場では悲鳴に近い状況に追い込まれている。作家の落合恵子さんが、母親の介護体験を振り返る雑誌の対談で次のようなコメントを述べた。「（介護の仕事は）本当に尊い仕事だと思っんですよ。でもヘルパーさん運をみていて、時給が正直低すぎる。日本は、ハードな、心のコもった仕事をしている人に対して、あまりにも給与が低すぎる。皆さんが物質的に豊かになることが、いい介護のスタートだと思います」。核心を突いたこのコメントに同感する。「まずやるべきことはここにあり」と言いたい。介護保険制度の根幹の問題である。京都府では、「福祉人材確保対策会議」を設置し、正面からこの課題に取り組み始めた。大いに期待したい。何よりもお年寄りや人間を大事にする世の中をつくるためにも。

特集

「介護・福祉サービス第三者評価」

より良いサービスを目指して、質の向上への支援を図る

【第三者評価とは】

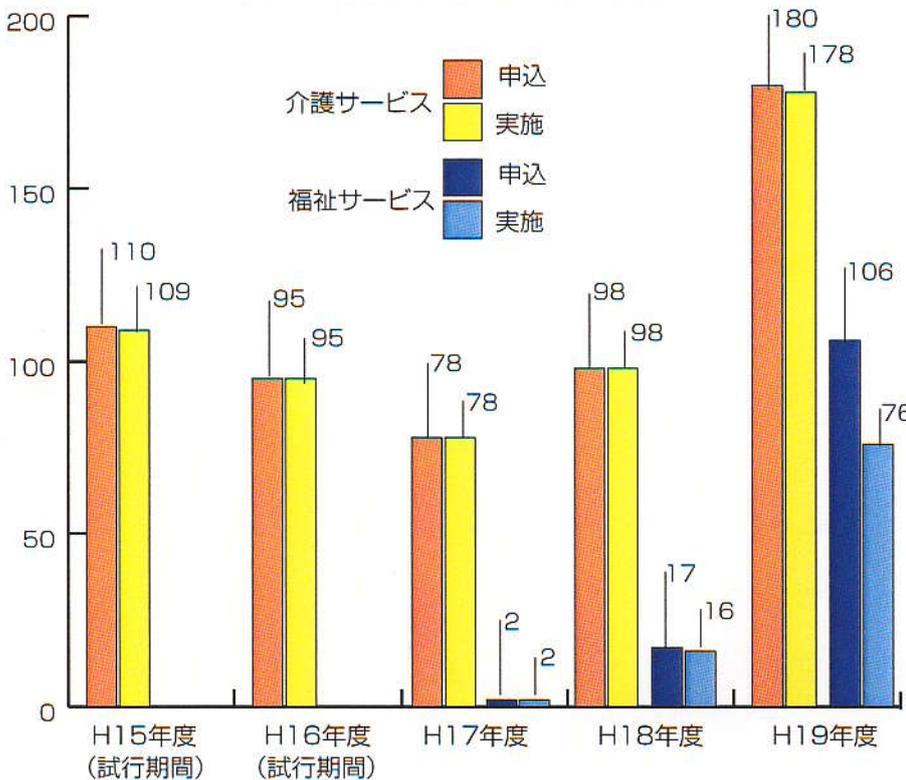
近年「第三者評価」は民間企業や病院、大学などで業種を超えてその取組みが広がっています。

介護・福祉の分野においても、介護保険法や社会福祉法の中で、「事業所は自ら提供するサービスの質の評価を行い、質の向上に努めること」が明記されています。

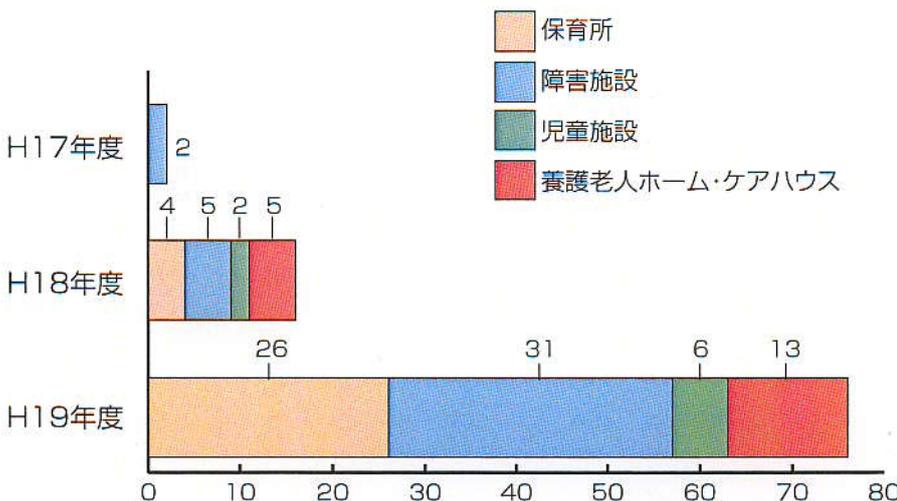
このような中、介護・福祉サービス第三者評価は、事業所や利用者という当事者の方だけではなく第三者が事業所を訪問し、その事業所のサービス内容や事業所としてのあり方を評価するものです。第三者による評価により、新しい視点、客観的な視点でもって事業所の状況を振り返る機会にしてい



(表1) 評価実施件数の状況



(表2) 分野ごとの実施内訳



い、サービス内容の改善・サービスの質の向上につなげてもらうものです。また、その結果を公開することにより、利用者にとってはサービス事業所を選ぶ際の有力な情報提供になります。

【評価実施件数の状況】

京都では、平成17年10月に事業者団体、利用者団体や関係職能団体、行政、学識経験者などの参画のもと、京都介護・福祉サ

サービス第三者評価等支援機構(事務局:京都府社会福祉協議会)を立ち上げ、介護・福祉サービスの第三者評価事業を推進してきました。

これまでに481件(平成15・16年度の試行事業も含めると686件)の受診申込みを受け、448件(試行事業も含めると652件)の評価を実施しています。(表1参照)

福祉サービス評価の分野ごとの実施内訳は次のとおりです。(表2参照)

【平成20年度の受診募集について】

平成20年度は介護サービス180事業所、福祉サービス100事業所を目標に受診募集を行っています。

受診を希望される事業所は、「受診応募票」に必要事項を記入して支援機構事務局まで送付ください。「受診応募票」はホームページからダウンロードすることができます。

今年度は介護サービス評価の項目改定を行い、各項目についてより深く評価を行う形に改善しました。また、新たに児童館について評価基準を策定しました。

介護・福祉サービスを受診することで、事業所としてサービスの質の向上を図るべきポイントやその視点が明確になります。また、評価を受けるために事業所の職員が一丸となって自己評価に取り組み、日々のサービスについて振り返ることにより、改めて事業所内のチームワークの向上やコミュニケーションの活発化につながります。

是非、第三者評価をサービスの質の向上に向けた取組みの柱としてご活用ください。

【評価料金】

分野	料金
介護サービス	9万円 (受診サービスが、居宅介護支援・訪問系サービスのみの場合)
	12万円 (受診サービスに通所系・入所系サービスを含む場合)
福祉サービス	20万円(共通評価基準のみの場合)
	30万円(共通評価基準+サービス内容基準)



そんなときに役に立つ!

京都介護・福祉サービス等
第三者評価サイト
<http://www.kyoto-hyoka.net>

活用ガイドブック

【評価機関の状況】

また、介護サービス評価では、特別養護老人ホームの約8割、介護老人保健施設の約5割の施設がこれまでに評価を受けています。

介護サービスの評価機関は15団体あり、法人種別は、株式会社1、社団法人5、NPO法人9となっています。

福祉サービスの評価機関は5団体あり、法人種別は、社団法人3、NPO法人2となっています。

それぞれの団体では特長を生かした調査者の確保・育成を行っており、第三者評価を希望する事業所に対して多面的な評価を行えるよう日々努力をしています。

それぞれの評価機関が、これまでに行った評価や連絡先などの詳細な情報については、支援機構のホームページ「第三者評価サイト」から見ることができます。

【評価を受けた事業所の声】

今回の受診はサービス評価委員を中心に職員一丸となり自らのサービス内容をより客観的に見直す良い機会になりました。出来ていること、不備なところなど改善点や課題が明らかになり、職員間で目標を共有化できたことは大きな収穫でした。
(乳児院)

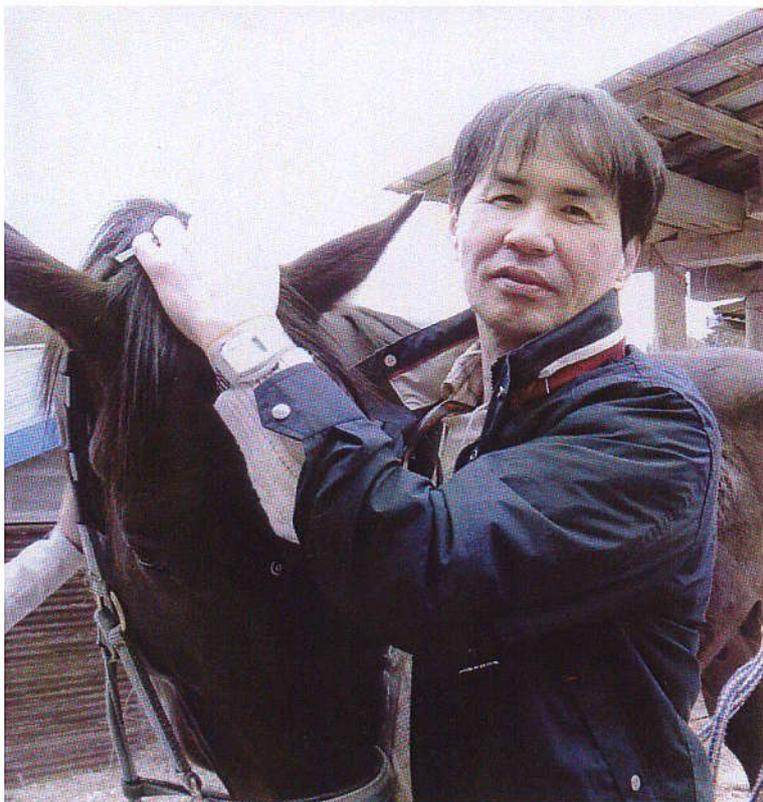
評価を受けてご提案いただいたことや課題については早速検討するとともに、今後はまた違った角度から施設を見つめ、利用者のために何をなすべきかを日々思慮し、更にサービスの質の向上に取り組んでいくことを職員一同確認しました。
(通所介護事業所)

我々の弱みと強みを真摯に受け止めていただき、また的確な表現と前向きな姿勢で指摘いただけたことに感謝しております。変わらなければいけないことと、変わってはいけないところをしっかりと見極めながら今後の事業運営の指針としたいと思います。
(障害施設)

受診することで施設の保育に対する取組みを、地域の方や興味を持たれている方に伝えるとともに、その透明性を認識してもらえる。さらに、園内のパートを含む情報の共有化が進められた。
(保育所)

ぱらっとホーム

このシリーズでは、いま、キラキラ輝いているひとを紹介しています。



「見えなくなつてから、見えてきた」

身体障害者馬とのふれ愛倶楽部代表 山下

泰三さん

「目が不自由だったら、馬の目を借りて乗ったらどうや」元オリンピック選手の高宮輝千代さんの一言が山下泰三さんの人生を大きく変えるきっかけとなりました。

山下さんは馬と出会い、再び生きる喜びと勇気を取り戻し、「同じようにハンデイを持つ多くの人たちにも、京都の自然あふれる牧場で乗馬を楽しみ、馬とふれあう喜びや感動を伝えたい」との思いで、平成14年7月NPO「身体障害者馬とのふれあい倶楽部」を設立し、また、障害者のカウンスリング「ピアカウンスラー」としても活躍中です。山下さんが高宮さんのこの一言にたどりつくまで、そしてこの言葉から始まった新たな人生について取材しました。

■難病宣告を受けて

山下さんが、目の異変に気づいたのはNTTに勤めていた40歳の頃でした。休日ゴルフや野球を楽しみにしていたある日、正面に来るボールは見えないけれど、左右から来るボールが見えない、一瞬ボールが消える感覚に襲われます。大学病院の診断の結果、失明に至る網膜色素

変性症という難病であると宣告を受けました。

精神的に落ち込み、家に引きこもりがちになった山下さんを支えたのは、奥様の美恵子さんでした。視力を殆ど失い、54歳でやむなく退職するまで、パートの合間を縫って車で送り迎えをするなど山下さんの目となり、心の支えとなり、いつもそばでそっと手を差し伸べて見守っている存在でした。「病気になるまでは、自分が家族を支えているんだと思っていたが、病気になるって初めて、家族に支えてもらって家族とともに生きているんだと痛感した。」と、山下さんは振り返ります。

子どもの頃、テレビで見た西部劇の主人公が馬に乗っている姿を見て自分も乗ってみたいという夢を持っていました。20代の若き頃、初めて京都競馬場で本物の馬を見て、迫力ある走りや優しい目、光り輝く毛並みに、子どもの頃の夢が蘇ってきましたが、乗馬を始めるという行動には至りませんでした。でも、その時初めて買った馬券で大穴を当てたことが、何十年先の馬との出会いを暗示していたのかもしれない。

■馬との出会いを暗示？

—大穴馬券を的中—

馬と山下さんとの出会いを暗示するかのようなエピソードがあります。

■馬の目を借りて乗ったらどうや

視力を殆ど失い生きる意欲をなくした山下さんに「気分転換にでもなれば」と美恵子さんが北海道旅行を計画しました。



NTTを退職する年の夏のことでした。そこで立ち寄った牧場で、初めて乗馬する機会が巡ってきたのです。「怖い」という気持ちよりも「馬に乗ってみたい」という子どもの頃からの夢が山下さんを乗馬へ導きました。

馬との信頼関係を築く中で

病気になってから、「今まで出来ていたことがあれもこれも出来ない」と出来ないことを数える苦しい毎日でした。そんな時に「目が悪くても馬に乗れないだろうか」と思いがつのり、旅行より帰ってからいくつかの乗馬クラブに問い合わせますが、「危ないから」と断られます。そんな時、右京区京北町にある高宮ライディングパークを

営む高宮輝千代さんから「目が不自由だったら、馬の目を借りて乗ったらどうや」と声をかけられたのです。この言葉を心の支えに厳しい特訓の日々が始まりました。

目が見えなくて馬術を身に付けるのは並大抵ではありません。落馬で生傷は絶えず、肋骨の骨折もしました。美恵子さんは「もうやめて」と言いたかったのを、牧場に通う山下さんの乗馬に挑戦する姿を見て言えなかったそうです。京北町の牧場まで毎週、美恵子さんが車で



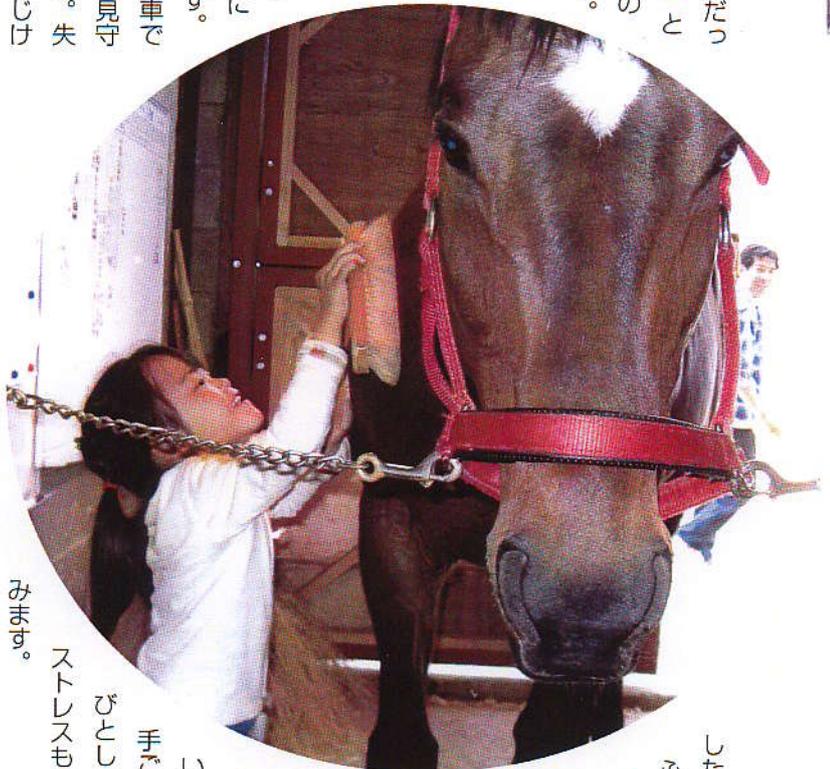
送り迎えをし見守り続けました。失敗を重ね、くじけそうになりながらも、1年かけて一人で馬を走らせるまでになりました。上手に乗れない時は「自分が馬を動かしている」という気持ちで接していました。ある時「自分の体を委ねて馬に乗せてもらっている」と気づいたそうです。人參をやったりブラッシングしたり、

「自分に生きる勇氣と自信を与えてくれた馬と人との出会いを、同じようにハンドレイを持つ多くの人たちにも伝えたい」と、平成14年7月に高宮さんの協力でNPO「身体障害者馬とのふれ愛倶楽部」を設立しま

多くの人にもっと伝えたい

話しかけたり、自分から心を開いて馬の気持ちになつて世話をしていると、あの大きな馬が嬉しそうに鼻を胸にくっつけて甘えてきたのです。こうして馬との信頼関係を築きコミュニケーションがとれるようになって、はじめて馬と共に走れるようになりました。

山下さんに今後の抱負や希望をお聞きしました。「いつか目が見えるようになって家族の顔や支えてくれる多くの仲間の顔が見たい。いつも想像の世界で生きているので、見えていた時には見えなかったものが、見えなくなって、見えてきたよ。」と微笑まれた言葉が感慨深く大変印象に残りました。その笑顔の奥には、大きな試練を夫婦で共に乗り越えてこられたことで生まれた、何にも変えがたい深い絆と感謝の気持ちが溢れていました。



みます。

見えなくなって見えてきたよ

「活動の確かな手ごたえを感じ、「自分の喜びとしての活動は疲れないし、ストレスもたまらないよ。」と心が弾

した。毎年5、6回、自然あふれる牧場で、誰もが馬に乗ったり触れたりできる集いを開いてきました。身体の不自由な子どもや発達障害の子ども、不登校の子ども、心に障害のある人など、さまざまな人が参加されています。「障害のある人もない人も笑顔と元気を取り戻す人が多いです。」と、活動の確かな

京都から

近年、企業の社会的責任(CSR)への関心が高まり、企業サイトにおける社会貢献活動への機運が醸成されつつあります。こうした中、本会においては、昨年度から福祉パートナー事業を立ち上げ、企業と社会福祉分野の連携・協働のための取り組みを進めています。

今号から福祉パートナー事業発「つながろう うみだそう」—企業と福祉 京都から—として、定期的に京都における企業の社会貢献活動事例について発信していきます。第一回目は、国内外で積極的に社会貢献活動を行っている「株式会社カスタネット」を紹介します。

目指すは いづも社会と 共鳴する企業

町家を開放し、人との交流・情報交換できる場に。

■国内のみならず、海外への社会貢献活動も展開

2001年に設立。創業当初から、「社会貢献活動は『継続』することに意味がある」と考え、少しずつ幅を広げてきている。

オフィス向け文房具販売の会社

障害者スポーツの支援、小学校での講演

「株式会社カスタネット」の理念は、社会貢献活動と事業活動との両立。カスタネットは、植木力社長が大日本スクリーン製造株式会社の社内ベンチャー第1号として

の活動から発展して、現地に小学校の新しい校舎も建設。寄付金に頼らず、クッキーの販売や、使用済みのトナーカートリッジ

をリサイクル用として販売した収益が財源となっている。

■「町家SNS」でつながる、人と事業

人と事業

2006年には、中京区に「社会貢献室 町家分室」、通称「カスタ君の町家」を設置した。染め工房兼住宅だった昭和初期

建築の町家の一部を同社の事務所に使い、一部は一般に無料で開放している。さらに、毎月第2金曜日に開催している交流会には、飛び入り参加を含め、主婦や学生、企業人、アーティストなどが集合。まさに「異業種



植木 力社長

交流会」として人気を博している。

靴を脱ぎ、畳の上で丸い卓袱台を囲んで膝をつきあわせれば、本音の話がしやすくなる。そこから人脈やビジネスのアイデアが生まれるのだという。植木社長は、「まさにアナログ版SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）です。私はこれを『町家SNS』と呼んでいます」と話す。

アイデア光る！

産廃扱いの点字用紙を再利用

実際に、視覚障害者のための福祉施設「京都ライトハウス」のスタッフが町家に寄った際、「点字用紙が余って困っている」とポロリと話したことがきっかけで、ひとつの事業へと展開した例がある。プロセスチックを含んだ点字用紙が産業廃棄物扱いになることを知った植木社長は、手提げ袋の材料として再利用を提案。「点字がデザインになるし、作業は施設で行うので、利用者の仕事が増えた。それに、健常者が点字に触れるきっかけになるのもうれしいですね」と植木さんは笑顔を見せる。

個人の意思で社会貢献できる

システムを構築

今後は、インターネットの専用サイトも充実させる予定だ。サイト上で10円分の寄付がついた210円のクッキーと、同じも



点字用紙を使った名刺



ので寄付のつかない200円のクッキーを販売し、購入者が自分の意思で社会貢献できるシステムを構築。「社会的買い物力ゴロソーシャルバスケット」と命名し、商標登録している。さらに、「営利企業であっても社会貢献を通じて、従業員も取引先も地域の人々も、みんなが自然と吸い寄せられるように集まる『マグネットカンパニー』を目指したいと思っています」と植木さん。今後もオリジナルティあふれる会社づくりを展開していく予定だ。

社会福祉施設 総合損害補償

しせつの損害補償

ホームページでも内容を紹介しています。
<http://www.fukushihoken.co.jp>

社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために！

プラン1

施設の業務中事故賠償補償

- ① 基本補償
 - 基本補償(A)は、法人業務を包括的に補償
 - 見舞費用付補償(B)は、賠償責任のない場合の見舞金も補償
 - オプション・医療事故補償も充実
- ② 個人情報漏えい対応補償
 - 個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合(おそれのある場合を含む)に補償
 - クレーム対応費用、見舞品購入費用等を補償

プラン2

施設利用者の傷害事故補償

- ① 入所型施設利用者
- ② 通所型施設利用者
- ③ 不特定多数利用者

プラン3

施設送迎車搭乗中の 傷害事故補償

- 施設送迎車に搭乗中の傷害補償
- 施設の過失の有無は不問

プラン4

施設職員の災害事故補償

- ① 施設の労災上乗せ補償
- ② 施設職員の傷害事故補償
- ③ 施設職員の感染症罹患事故補償

プラン5

施設の什器・備品 損害補償

- 施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償
- 施設の現金等も補償

◆ 加入対象は、社会福祉法人等で運営している社会福祉施設です。

- 全国社会福祉協議会のスケールメリットを活かし、充実した補償内容
- 団体契約のため有利な補償と割安な保険料(掛金)
- 迅速で丁寧かつ適正なお支払い

● この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「助産総合保険」)です。

● このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記をお願いします

団体
契約者

社会福祉法人
全国社会福祉協議会

取扱
代理店

株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
(引) 受幹事保険会社 株式会社 損害保険ジャパン

京都府内市町村社協の ホームページ開設率が88%に!

京都府社協では、平成20年度の自主事業として「市町村社協ホームページ開設支援事業」を実施し、京都府内25市町村社協中、11市町村社協が本事業でホームページの立ち上げ・リニューアルをしました。従来、ホームページの作成・更新には、特別なソフト等の購入が必要でしたが、本事業で立ち上げるホームページはインターネットに接続できるパソコンさえあれば記事の作成・編集が可能となっています。また、共通テンプレートの構築などにより1社協あたりの立ち上げ経費を低額に抑えることができました。

本事業によるホームページの立ち上げにより、京都府内では、既に独自に開設されている社協を含めると、開設率が88%（25市町村社協中22社協）となりました。効果的な情報発信を目指して、引き続き市町村社協と連携して取り組んでいきます。

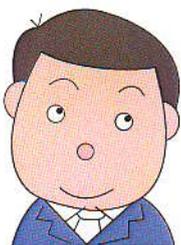
京都府内各市町村社協のホームページへは、
京都府社協ホームページ (<http://www.kyoshakyo.or.jp/>) の
トップページ上部の「リンク」からアクセスしてください。



京都府社会福祉協議会 平成19年度 決算の概況（一般会計）

経常収入	決算額	構成比
補助・委託金収入	287,516,785	65%
会費収入	13,726,700	3%
寄付金収入	2,209,497	1%
共同募金配分金	12,350,000	3%
事業収入	98,675,911	22%
預金利子	17,164,862	4%
その他	8,893,121	2%
総計	440,536,876	

経常支出	決算額	構成比
人件費	217,372,654	51%
事務的経費(印刷費・通信費など)	12,185,628	3%
地域福祉・ボランティア振興関係事業費	22,937,000	5%
共同募金配分金事業費	12,744,775	3%
介護・福祉サービス等利用者支援関係事業費	69,369,142	16%
福祉人材養成関係事業費	38,626,500	9%
生活支援関係事業費	5,023,256	1%
その他の事業費	43,253,438	10%
全社協負担金	1,710,000	0%
総計	423,222,393	



「京都の福祉」へのご意見、感想、とりあげてほしいテーマなどお寄せください。表紙の写真も募集しています。

本会へのご意見等は、右記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

京都の福祉 毎月1日発行
昭和36年7月26日 第3種郵便物認可

発行所 京都府社会福祉協議会
発行人 森 育 寿

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375
TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310
URL <http://www.kyoshakyo.or.jp>